

「主な装飾メッキ」ミニ知識

1960年代の婚礼家具の金物に好んで使われていたメッキの色は次のようなものでした。その特徴やメッキ工程について簡単に紹介します。

GBメッキ

GBとは Germanic Bronze の略称。木の色合いに合うということで、当時の家具に広く用いられたメッキです。防錆よりも装飾性を主な目的としています。薬品着色やバフ研磨の段階で、GB以外にも、赤GB、マホガニー色、銅古美など様々な色調が得られます。

メッキ工程 素材 → 脱脂 → 銅メッキ → 薬品着色 → バフ研磨 → クリヤー塗装 → 乾燥



仙徳色メッキ

元々は中国・明の宣徳時代に造られた宣徳銅器の色に由来する着色法です。真鍮色系のメッキで、黒の濃淡ぼかしによる色調がアンティークな雰囲気を出して、家具金物や照明器具などのインテリア商品に広く用いられました。

同系統として、ドイツBGなどがあります。

メッキ工程 素材 → 脱脂 → 銅メッキ → 真鍮メッキ → 薬品着色 → バフ研磨 → クリヤー塗装 → 乾燥



銀古美色メッキ

古来わが国では金や銀に古色ふるでを着ける「古手処理」という加工技術がありました。これが現在、古美ふるびと呼ばれている色の源流です。

銀古美色メッキは、黒ニッケルメッキ等を施して本来の銀古美に近い色調に仕上げたものです。

メッキ工程 素材 → 脱脂 → 銅メッキ → 真鍮メッキ → ニッケルメッキ → サターナバフ研磨 → 黒ニッケルメッキ → バフ研磨 → クリヤー塗装 → 乾燥



金色メッキ

「きんしょく」と呼んでいます。金は周知の通り高価なため、一般にはその代替として真鍮合金をメッキしたものです。「金のような色をした」という意味です。

メッキ工程 素材 → 脱脂 → 銅メッキ → ニッケルメッキ → 真鍮メッキ → クリヤー塗装 → 乾燥

